

「生産性向上支援訓練」による研修会開催される



昨年度より、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構ポリテクセンターによる「生産性向上支援訓練」の認定を受け、平成30年度2度の研修を行った。

第1回目は10月20日と27日の2日間にわたり、株式会社サーテックカリヤ大津崎工場において『品質管理実践』をテーマに研修を実施した。

講師は昨年度開催の「生産現場の問題解決」の講師も務められたKWPコンサル株式会社 代表取締役の本多貴治氏。氏は、現場直結の生産・品質カイゼン/工場・

経営カイゼン支援及びJAB認定審査機関所属委託主任審査員としてIS09001審査活動を行っている。

愛知県の製造業は言うまでもなくトヨタ自動車の関連会社がひしめいており、当然のごとくISOやQCサークル活動が活発に行われている。中小企業である当組合員の中にも取り組みをしている企業が数多くある。しかし、QCサークル活動に対する従業員の士気を高めるための教育は出来ていないのが現状だ。

そこで、今回は、品質管理実践 ～現場リーダーの日常管理！～ と題し、

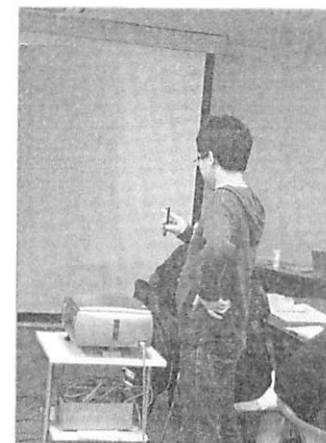
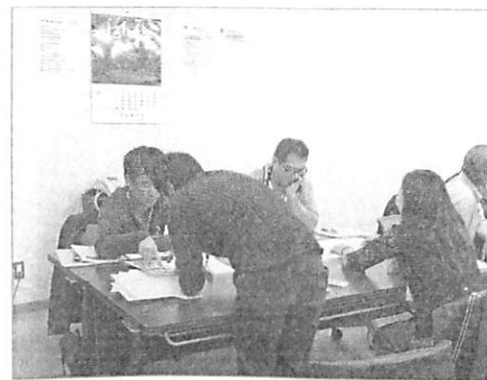
- (1) QCサークル活動/問題解決ステップを理解して、品質改善を行う。
- (2) 標準類を使って、維持活動を行う。
- (3) 変化点に気を配り、変化点管理を行う。
- (4) 職場/部下とのコミュニケーションを図り、品質への認識を高揚させる。

以上の点を踏まえ、1日目には品質保証体質の再確認、IS09001 2015での新たな要求項目、QCサークル活動における『テーマの選定』から『歯止め・標準化』まで講義を受けたのち、講義に沿って各自が持ち寄った事例を再度手直し、グループ毎に発表、講師がフィードバック。その後、良い発表の事例を参考に、ストーリーとしていかに整理され、分かり易い写真やグラフなどで作成された内容か、自分たちの事例との違いを解説した。

2日目は各自持参した【作業要領書】を見直した。言葉の曖昧さ、不明瞭な点が続出。普段使いの言葉ではうなずくことが出来ても、理解は出来ていないため、仕事に取り掛かれない。他の人に説明できないといった事が起こる。そこで、作成の際には『具体的な言葉・表現』を心掛けるようにする。続いて、変化点管理の講義では、変化点管理が不適切であったために品質問題を発生する。『変化点』の気付きが重要であり、確認事項などの期間を社内ルールとして確立する必要性を学んだ。QCサークル活動の要である【仲間たち】の気付きや問題点の提議などに声を傾け（傾聴）ることにより、職場環

境の整備、品質管理の向上、その結果不良の無い製品が生まれ、本研修の目的である「企業として生産性を向上させること」となると結んだ。

最後に、受講者の更なる研鑽を祈り、この2日間の研修に関する小テストを行い、「質問10. あなたが、今後リーダーとして注力したいことは何ですか？」に対し、「自分が用意した作業要領書が古く、不明瞭な点が多いので要領書を手直しし、新人の教育に役立てていきたい」と、ジャンケンで決めた受講生代表が力強く発表し、閉講した。



「生産性向上支援訓練」による研修会開催される



昨年度より、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構ポリテクセンターによる「生産性向上支援訓練」の認定を受け、平成30年度2度の研修を行った。

第1回目は10月20日と27日の2日間にわたり、株式会社サーテックカリヤ大津崎工場において『品質管理実践』をテーマに研修を実施した。

講師は昨年度開催の「生産現場の問題解決」の講師も務められたKWPコンサル株式会社 代表取締役の本多貴治氏。氏は、現場直結の生産・品質カイゼン／工場・

経営カイゼン支援及びJAB認定審査機関所属委託主任審査員として ISO9001 審査活動を行っている。

愛知県の製造業は言うまでもなくトヨタ自動車の関連会社がひしめいており、当然のごとくISOやQCサークル活動が活発に行われている。中小企業である当組合員の中にも取り組みをしている企業が数多くある。しかし、QCサークル活動に対する従業員の士気を高めるための教育は出来ていないのが現状だ。

そこで、今回は、品質管理実践 ～現場リーダーの日常管理！～ と題し、

- (1) QCサークル活動／問題解決ステップを理解して、品質改善を行う。
- (2) 標準類を使って、維持活動を行う。
- (3) 変化点に気を配り、変化点管理を行う。
- (4) 職場／部下とのコミュニケーションを図り、品質への認識を高揚させる。

以上の点を踏まえ、1日目には品質保証体質の再確認、ISO9001 2015 での新たな要求項目、QCサークル活動における『テーマの選定』から『歯止め・標準化』まで講義を受けたのち、講義に沿って各自が持ち寄った事例を再度手直し、グループ毎に発表、講師がフィードバック。その後、良い発表の事例を参考に、ストーリーとしていかに整理され、分かり易い写真やグラフなどで作成された内容か、自分たちの事例との違いを解説した。

2日目は各自持参した【作業要領書】を見直した。言葉の曖昧さ、不明瞭な点が続出。普段使いの言葉ではうなずくことが出来ても、理解は出来ていないため、仕事に取り掛かれない。他の人に説明できないといった事が起こる。そこで、作成の際には『具体的な言葉・表現』を心掛けるようにする。続いて、変化点管理の講義では、変化点管理が不適切であったために品質問題を発生する。『変化点』の気付きが重要であり、確認事項などの期間を社内ルールとして確立する必要性を学んだ。QCサークル活動の要である【仲間たち】の気付きや問題点の提議などに声を傾け（傾聴）ることにより、職場環